

第10回 親子田んぼ教室

稻刈り

山下美佐子（東金市）

日 時：2022年9月10日（土） 9時30分～12時 天気：晴れ

参加者：20名（大人11名・子ども9名） 担当指導員：武田 山下（美）

ビオトープの会：1名 管理事務所：2名

昭和の森ビオトープ田んぼは涼しい風が吹いて稻刈り日和。今年度申し込み者全員が元気な笑顔で稻刈りに参加した。スズメバチやヘビなど危険な虫の対処法を話してから田んぼへ出発。田んぼまでの道ではアカトンボやオニヤンマが飛んでいたり、大きくなつたヤマグリのイガやクサギの花の甘い香りを観察したりして楽しんだ。

田んぼに到着して早速自分たちが植えた稻の様子を観る。穂が重たそうに垂れていて安心。稻の苗を植えてからおよそ130日で米が実った計算だ。ビオトープ田んぼの隊長岡山さんから稻の刈り方、東ね方、はざかけの仕方の説明を聞き、いよいよ稻刈り開始。田んぼは「ふかんぼ」で柔らかく足を運ぶのも大変。最初はおっかなびっくりで稻を刈っていた子ども達だが、すぐにコツを覚え、泥んこになりながらもサクサクと小気味良い音を出していた。子どもはイネ刈り、大人は子どもから受け取ったイネを畠で束ねて、はざかけへと、家族のチームワークもばっちりです。稻刈り後はヒガンバナを真ん中に記念撮影。田んぼには、水たまりに泳ぐメダカやニホンアカガエル、イナゴ、チョウセンカマキリ、卵を背負ったコモリグモ等がたくさん観られた。稻刈り後の田んぼには、水たまりにシオカラトンボが産卵していた。今日刈り取ってはざかけをした稻は、しばらく乾かし、脱穀→天日干し→糲摺り→精米を経てようやくご飯として食べられる事、イネの一粒の米（糲）はたくさんのミネラルを含み、世界中の約半数の人たちが主食にしているなどの話を聞き、改めて米の大切さがわかった。

田んぼの生き物調査は少ない時間だったが、ホトケドジョウ、ヤゴ、メダカ、カワニナ、ヒメゲンゴロウ、マツモムシなどたくさんの生き物を捕まえ、観察後放した。最後にお米の引換券を参加者家族に渡して今年度親子田んぼ教室は終わった。参加者は楽しかつた、また参加したいと聞き、事故もなく楽しく3回の田んぼ教室を終えることができたことにホッとした。

